

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
1 教員の専門性向上と個別の指導計画を具現化した授業の改善・充実の推進	① 学部を超えて授業を参観し、参観者によるコメントをもとに小・中・高が連携した授業改善に取り組む。	教務課	授業を参観した回数が A：7回以上 B：6回 C：4～5回 D：3回以下	授業を参観した回数の合計は136回で、一人あたりの平均は、6.8回であった。（1月末現在）	全学部6回以上の参観を達成することができた。他学部の児童生徒の様子がわかり、個に応じた支援の在り方や環境づくりなど、お互いに参考にすることができた。課題としては、教員の空き時間が決まっているので、参観できる授業に限られている。次年度は、より自由に参観できるような取り組みが必要である。	B
	② 教員の専門性向上のための校内の事例検討会や研修会を企画する。	キャリア支援課 自立支援	実施した校内研修の回数が A：12回以上 B：9回～11回 C：6回～8回 D：6回以下	実施した校内研修会の回数が11回であった。	児童生徒理解の研修会として4回、参加者を広げた分校会議を2回、事例検討会を3回、外部講師を招いた研修会を2回、計11回開催することができた。児童生徒の対応について具体的・実践的に学ぶ機会となり専門性の向上に繋がった。年度当初の児童生徒理解の会については情報が多すぎたなどの課題があった。次年度も継続して取り組む。	B
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の参観は参観期間を決めて取り組んだ方が目標を達成しやすい。 ・すべての職員での児童生徒理解研修会は評価できる。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の参観は参観期間を決めて取り組む。 				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 社会とのつながりを意識できるように、外部講師や地域資源を活用した授業を計画し実践する。	キャリア支援課 進路指導	各学部で協議した授業を A：授業を15回以上計画・実践した B：授業を13回計画・実践した C：授業を8回計画・実践した D：授業を5回以下しか計画・実践できなかった。	各学部で協議した授業を22回、計画・実践した。 小学部 公民館交流（3） 宝立小中交流（2） 奥能登国際芸術祭 中学部 分校喫茶（10） 奥能登国際芸術祭 高等部 就労サポーター（2） 外部講師（3）	社会とのつながりを意識した授業として、小学部は公民館交流、小・中学部の奥能登芸術祭の見学、中学部は分校喫茶を実施（延べ10回、来客者数217名）した。多数の地域の方々と交流しながら学び、コミュニケーション力も向上した。高等部では就労サポーター、外部講師による授業を実践した。次年度も各学部の段階に応じた授業を計画し、地域とのつながりを深めたい。	A
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・分校喫茶等は地域に溶け込み、地域に認められる学校・子ども達になったと感じる。 ・回数で評価基準を設定すると、内容より回数に目がいくので注意して欲しい。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は更に地域に根ざした取組を継続・発展させる。 				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
3 地域関係機関とのネットワークの構築によるセンター的機能の向上	① 地域の関係機関や外部専門家と連携し、特別支援教育に対する校内外のニーズに応じた支援を行う。	キャリア支援課 自立支援	改善のための実践を行った教員の割合が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	改善のための取り組みを行った教員の延べ人数が17名分の15名で、88%であった。	珠洲リハビリテーション科や県リハビリセンターに延べ13回来校してもらい指導・助言を受けた。複数回診てもらうことでスパイラルな改善の取り組みに繋がった。一方、受けた助言について関わる教員間の共通理解が弱かったという課題がある。校内の教員が医療的な視点で支援を受けられるという点が良かった。次年度は珠洲分校が校外に対しセンター的機能を向上するという視点からの取り組みにする。	B
学校関係者評価委員会の評価		・教員が医療的な視点で指導・助言を受けられるという点が良い。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・受けた指導・助言について、教員間の整理会を実施する。				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度の扱い（改善策等）	最終評価
4 安心・安全な学校づくりの推進	① 職員の「安心・安全」に関する意識を高めるため、防災に関する情報を「防災だより」を通じて発信する。	生活支援課	提供された安心・安全に関する情報が役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	提供された安心・安全に関する情報が役立ったと判断する職員の割合が90%であった。	防災だよりは3号発信した。防災訓練や防災だよりが「役立つ（28%）」「まあまあ役立つ（62%）」であった。検索訓練マニュアルを生徒の実態から想定される内容に改善した。避難訓練時の重複障害生徒の避難方法が今後の課題である。次年度も生徒の実態に合わせて継続して取り組む。	A
	② Webページで学習活動の様子や学校からのお知らせを積極的に発信する。日々の行事だけでなく、進路に関するページなど、保護者や地域の方に有益と思われる内容を吟味し、公開する。	総務課	Webページのアクセス数が年間で A：25000件以上 B：20000件以上25000件未満 C：15000件以上20000件未満 D：10000件以上15000件未満	Webページのアクセス数が1月末現在で36,387件であった。	4月当初は月に2000件以下のアクセス数であったが、珠洲分校の生徒、卒業生に関するテレビ報道があり、10月以降のアクセス数は月に4000件を超えるようになった。珠洲分校に関心を持つ人が増えアクセス数が増加したと思われる。また、学校全体で日々の教育活動等の更新を心掛けることで、一度興味を持った人々が、継続して閲覧しているため、アクセス数を維持できているとも考えられる。次年度も学校全体で継続して取り組む。	A
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・「役に立つ」「まあまあ役立つ」の、何が役に立つのかを、具体的に分析して評価して欲しい。 ・重複生徒の避難方法については、避難訓練とは別に実施して取り組んではどうか。 ・広く知られる学校になるために、継続してHPの更新をして欲しい。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・重複生徒を対象にした避難訓練の職員研修会を実施する。				